

2018年度第6回支部集会【関西支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会 共催：武庫川女子大学
開催日：2019年3月23日(土) 会場：武庫川女子大学中央キャンパス
参加者：156名（会員98名・一般58名）

今年度最後の支部集会が2019年3月23日(土)、武庫川女子大学中央キャンパスで開催されました。口頭発表7件（うち1件は発表者の都合により辞退）、交流ひろば9件と昨年度よりも発表、出展数が増えたことは、関西での支部集会がより広く認知されてきたことの現れであると言えます。集会ではチャレンジ支援委員会による発表応募支援セミナー＆個別相談も実施され、今後ますます学会発表や交流ひろばへの出展が増えていくことと期待されます。また昨年度から始まった交流ひろばについては「ポスター発表との違いがよくわからない」といった声もありましたが、出展者、参加者がいっしょに教材を覗き込みながらざっくばらんに日々の教育実践について意見交換するなど、工夫を凝らした方法で交流を深める光景が見られました。



口頭発表



交流ひろば



発表応募支援セミナー＆個別相談
(チャレンジ支援委員会)

さらに上記に加えて、支部活動委員企画による「技能実習生への日本語教育を考える」と題したパネル・ディスカッションも行われました。今年4月からの入管法の改正によって日本社会が外国人労働者受け入れ拡大に大きく舵をきる中、すでに日本社会の人手不足産業の現場を担っている「技能実習制度」を取り上げました。まず龍谷大学名誉教授田尻英三氏よりその制度の概要と新設された在留資格「特定技能」との関連をお話いただき、



続けて彼らへの日本語教育の実態について、入国直後に行われる講習の事例をグットハーモニー協同組合の宮本敬太氏に、実習開始後の日本語教育の事例として東大阪日本語教室の樋口尊子氏にそれぞれの実践の概要と現場で感じている課題についてお話いただきました。フロアからも活発に意見が出され、現行の技能実習生への日本語教育の課題が解決されないまま日本社会における日本語教育への期待がますます高まっている状況と、日本語教育に携わる者としての責任を再認識する機会となりました。

した。

地域における日本語教育の普及、推進、活性化を目的とした本支部集会の開催にあたっては、150名を超える会員・非会員みなさまにご参加いただきました。また会場校である武庫川女子大学の上田和子氏、野畑理佳氏をはじめ、同校卒業生や在校生のみなさまに多大なご尽力を賜りました。あらためて当日の参加者や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

なお来年度以降の支部集会も、円滑な運営のため、ご参加の折には学会ホームページ（マイページ）より事前登録をよろしくお願いいたします。

（支部活動委員 和泉元千春・亀田美保）

◆予定されていた以下の発表は、発表者の都合より中止になりました。

口頭発表⑦ 14：45-15：15

「短期日本語プログラムにおける日本人学生の学び —交流授業における言語的調節からわかること—」 牛窪隆太（関西学院大学）

◆パネル・ディスカッション「技能実習生への日本語教育を考える」より、[宮本敬太氏](#)、[樋口尊子氏](#)の発表資料を本人の許可を得て公開します（名前のところをクリックしてください）。